

各関係機関長 様

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

平成 26 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号を送付します。

---

平成 26 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

1. 病 名 シソモザイク病 (仮称)

2. 病原ウイルス名 *Perilla mosaic virus* (PMoV)

3. 発生物種 シソ (オオバ)

4. 発生経過

平成 12 年頃から高知県中央部の施設栽培葉シソ (オオバ) において、葉にモザイク症状を呈する株がみられた。高知県農業技術センターで調査したところ、ウイルスによる病害であることが示唆されたが、病原体の特定には至らなかった。その後、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業総合研究センターにおいて病原体の同定に取り組んだところ、新種のウイルスである PMoV が原因であることが明らかにされた。

5. 病 徴

本病は葉に明瞭なモザイク症状を生じる (写真 1)。発生がひどいと葉脈が曲がって葉が変形する (写真 2)。症状は株全体で見られる場合と枝単位で見られる場合とがある。RT-PCR 法により診断できる。

6. 伝染方法

PMoV は *Emaravirus* 属に近いウイルスで、シソサビダニ (上遠野・岸本, 2013、写真 3) によって媒介される。種子伝染や汁液伝染、土壌伝染はしないと考えられるが、新種のウイルスであることから詳細は不明である。現在、伝染性の解明に向けた試験が関係機関で実施されている。なお、国内における *Emaravirus* 属のウイルスの発生はイチジクモザイクウイルス (*Fig mosaic virus*) が報告されているのみである。

7. 感染植物

シソ以外の感染植物は不明である。

8. 防除対策

新種のウイルスであり防除対策は明らかでないが、次のような対策が有効と考えられる。

(1) 苗への感染を防ぐため、本圃とは別の場所で育苗する。

(2) 罹病株を抜き取る。この際、ビニル袋をかぶせて抜き取るなど、媒介虫であるシソサビダニが健全株に移らないよう十分注意する。なお、枝単位で発病している場合は、罹病枝を除去すると発症が抑えられる場合がある。

9. 参考資料

上遠野富士夫・岸本秀成 (2013) : 日本の農作物から新たに発見されたフシダニ 2 種について. 第 57 回日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集 57 : 78

久保田健嗣ら (2014) : シソモザイク病 (新称) を引き起こすシソモザイクウイルス (仮称) のゲノム構造および媒介生物. 平成 26 年度日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集 : 133.

富高保弘ら (2013) : 高知県のモザイク症状を呈する青シソから見いだされた *Emaravirus* 様の新規ウイルス. 日植病報 79 : 242 (講要) .

お問合せは、環境農業推進課 (担当 : 島本、TEL : 088-821-4861) または病害虫防除所 (担当 : 朝比奈、TEL : 088-863-1132) まで

